

西表島教材解説

- 1.網取よ、よみがえれ
- 2.船浮の黒蝶真珠養しょく
- 3.大原の製糖工場

- 1.網取よ、よみがえれ
- 2.船浮の黒蝶真珠養しょく

金城 絵美

今回の改訂にあたって前回と違うのは、網取村の碑が完成しているという点であった。そのため、今回は、完成した碑と碑文をのせることで、網取村の人々の“思い”がじかに伝わる形となっている。『廃村』という結果になってしまった網取村の人々の思いと共感できる部分を見つけてもらい線をひく作業を行うことで、子供たちに考えてもらう教材となっている。

「船浮の黒蝶真珠養しょく」の教材化にあたって、大まかな改訂はなく、前回のものにそってのデータ変えや、前回は、あまり触れていなかった黒蝶真珠の色について触れてみた。黒蝶真珠の不思議な魅力が伝えられる教材にするために、「色」について触れてみたのである。2での改訂はほとんどなく、そのままにしてある。3では、黒蝶真珠の母貝であるクロチョウガイの養殖を船浮部落で行っている様子について子供たちに伝えたい。この船浮は過疎に直面したことがあり、今もその問題は解決していない。4では、過疎に触れてみた。過疎の問題を考えてもらうように教材を作ってみた。そして、前回あった環境問題については、ほとんど変えず教材化した。この教材で子供たちが、一つの生き物から村、人々、過疎、環境などの問題につながることに気付いてくれたらと思う。

3.大原の製糖工場

安里洋平

1、原料のさとうきび

図にさとうきびの生産量を打ち込むことによって、さとうきびの生産分布を視覚的に理解させ、そこから西表東部でさとうきびが盛んで逆に西部はそうでないことが分かる。

その続きとして、考えてみようからさとうきびを育てるためには様々な自然的・人為的な条件が必要だということを子供たちに伝えてほしい。この設問で設けた、選択肢以上にさとうきびを育てるための必要条件がまだまだ存在すると思われる。それらについて、子供たちが自主的に学んでくれるきっかけになってくれれば幸いです。

2、黒ざとうができるまで

砂糖の製造過程を学ぶとともに、それを分析させ機械の役割や機能を学んでほしい。これらは、多少複雑な作業になると思われますが、工場見学などで学ぶことを前提に考えると十分可能な範囲だと思われます。

3、ごみを減らす

西表島では、ごみの処理が大きな問題になっています。そういった環境のなかで、この教材から、私たちの生活にいかにごみを減らし効率化を図る事が大切かを学んでほしい。このケーキを燃料にするという考えは、バイオマスの考えに近いもので自然環境を考える教材としてもよいものだと思われる。産業構造を学ぶための当教材において、地球環境に関する問題を絡ませることは当初の目的から、多少遺脱するものと思われますが、現在の企業活動には多くの環境保全義務が存在することを考えた時、決定的外れな教材ではないと思われます。子供たちの反応がよければ、バイオマスやエコマークなどの企業の環境保全活動について調べることもよいかと思われます。

4、工場で働く人々

西表をはじめ竹富町の多くの島々が、離島であることによって雇用に対する大きな問題を抱えています。そのため工場を稼働させるためには、西表に住む人間だけではなく他の都道府県からの労働力が必要になってきます。そのことを図に記入することによって子供たちが気づいてくれればと思う。

5、さとうきびの種類とその行き先

自分たちの周りで生産されている、さとうきびがどこを通してどのように流通するかを知ってほしい。それによって流通についての概要を学んでほしい。そこから、普段何気なく買っているものが、多くの人の努力によってもたらされたのだと気づいてほしい。それらが発展して国内の流通だけでなく、外国との貿易などにも興味をもってくれればと思う。

6、黒ざとうの未来

現在、沖縄のさとうきびは外国製品の進出によってその立場を危うくしている。そこから貿易について学んでほしい。また、やってみようより企業活動として CM などのアピールがなぜ必要で需要があるのかについても学んでもらえればと思う。